

思いを大切にし、自己肯定感をもてる児童の育成 —個々のねらいを大切に活動する取組を通して—

日進市立赤池小学校教諭 伴野 正史

1 はじめに

本校は、開校8年目の比較的新しい学校である。校区には赤池駅があり、人口が急激に増加している地区である。開校当時は児童数444人であったが、現在は643人になっている。今後も児童数の増加が見込まれ、今年度、校舎の増築を行った。さまざまな取組を見直す時期にもきている。

センターによる実態調査の結果と、本校児童の実態調査の結果を比較すると、次の傾向が見られた。

- ① 小学校5年生全体の結果よりも、ほとんどの調査項目において高い結果が出ている。
- ② 全体的に、「～は大切である」という意識と、それに対応した「～をしている」という行動の数字に差がある。

②については、例えば「挨拶は大切である」と答えている児童の割合と、「挨拶をしている」と答えている児童の割合に差があるが、特に「感謝の気持ちを伝えること」「自然や環境を守ること」「約束や決まりを守ること」の調査項目において、顕著に差が見られた。

このような結果になった要因として、①については、今まで取り組んできた活動が子どもの心の成長につながったのだと考えられた。また、地域の活動が活発であり、地域と児童が関わる場面が多いことも要因の一つであると考えられた。②については、考えや思いが行動として表れていないことと、自分がしていることやできていることに自信がもてていないことが原因の一つに挙げられた。つまり、日々自分が取り組めていたり、さまざまな活動を通してできるようになったりしているにもかかわらず、それに気付いていなかったり、自信をもてていなかったりと、自己肯定感が十分に育成されていないことが課題として浮かび上がった。

そこで、今までの活動を大切にしつつ、そこに自分の行動を意識させることを取り入れることで、自分の行動と思いがつながって、それが自信となり、自己肯定感が高まるであろうと考え、実践を行った。

2 目指す子ども像

自分の思いを明確にもって活動に取り組み、自分のできることに自信をもち、自分を認めることのできる児童

3 手だて

(1) 地域や保護者との関わりのある活動の充実

- | | |
|-----------------|-----------|
| ア 「地域キラキラ隊」 | イ 「親子草取り」 |
| ウ 地域の伝統的な活動への取組 | エ 「感謝の会」 |

(2) 地域の活動への積極的な参加

- | | |
|-----------|---------------|
| ア 「土曜クラブ」 | イ 「おやじの会」 |
| ウ 「門松づくり」 | エ 「地域ふれあいまつり」 |

(3) 活動のねらいを伝え、自分なりの目標を明確にする取組



<地域キラキラ隊>

4 実践の内容

(1) 地域や保護者との関わりのある活動の充実

体験的活動の取組の中で、地域に関わる活動を取り入れてきた。

ア 「地域キラキラ隊」

地域のお年寄りとともに地域の清掃を行う活動。年2回。1回目は学年、2回目は縦割り班で活動する。(本校は、清掃を縦割り班で行っている。また、その縦割り班を「なかよし班」と呼び、なかよし遠足やゲームラリー、縄跳び大会などの取組を行っている。)

イ 「親子草取り」

保護者に来校してもらい、児童と一緒に草取りを行う。年に2回。1回目は、春にPTA事業として、土曜日に行い、2回目は、秋の運動会前の平日、全校草取り活動と一緒にしてもらおう形で行う。今年度の秋は、約100人の保護者が参加した。3年生の児童が、「お母さんが来てくれるとうれしい」と言って、張り切っていた姿が印象的であった。

ウ 地域の伝統的な活動への取組

中学年が地域を知る活動と関連して、運動会で「鳴子踊り」、学習発表会で「木遣り唄」を学び、披露している。いずれも地域の人を講師として取り組んでいる。また、地域の盆踊りでは、有志の児童が地域の人と一緒に、学んだ木遣り唄を、檜の上で披露している。

エ 「感謝の会」

1年間お世話になった人々を招待し、感謝の思いを伝える児童集会を行う。

【招待する人…交通指導員、給食配膳員、図書館司書補助員、畑をお世話してくれる人、鳴子踊りや木遣り唄を教えてくれた人、昔あそびを教えてくれた人(1, 2年生生活科)】

(2) 地域の活動への積極的参加

PTAや父親たちが、教職員と連携を図りながら、さまざまな活動を行っている。

ア 「土曜クラブ」

PTA主催の活動。地域の人が講師となって、さまざまな分野の講座を開く。年4回行っている。

【理科実験、昔あそび、スポーツ、料理、工作など】

イ 「おやじの会」

有志の父親が集まって、さまざまな活動を行う。

【修繕・物作り活動(ベンチ、校内の人工池の橋等を作ったり、ペンキ塗りを行ったりした)、「学校に泊まろう会」の企画・運営、門松づくり、など】

ウ 「門松づくり」

おやじの会で、学校の玄関に飾るりっぱな門松を作る。同時に、



<親子草取り>



<運動会 鳴子踊り>



<学習発表会 木遣り唄>



<感謝の会>



<おやじの会
門松づくり>



<親子門松づくり>

専門家を呼んで、親子ミニ門松づくり教室を開催する。

エ 「地域ふれあいの会」

赤池小学校家庭教育推進委員会と小中のPTAが連携をして、小学校を使用して、地域のふれあいを深める餅つき大会やゲームなどの催しを行う。PTAがさまざまなブースを作って児童が参加をする。中学生も一つのブースを作り、工夫したゲームを行う。また、鳴子踊りが披露されたり、防災活動の一環として消防署員を招き、放水体験やはしご車体験などを行ったりする。



<地域ふれあいの会>

日々の活動に加え、(1)や(2)などのいろいろな取組を通して、子どもたちの成長を促し、それが実態調査の結果につながっているように思われる。しかし、「～は大切である」と感じている児童は多いものの、それに対応した「～をしている」と答えている児童の割合が少ないという調査結果も出ている。つまり、豊かな人間性に関わる事柄に関して、それを身に付けることは大切であると感じており、教員から見ると、実際に身に付けていると考えられるにもかかわらず、児童本人には、それに気付いていなかったり、実感していなかったり、また不十分であると感じていたりしていると思われる。そこで、自分の意識と行動をつなげる活動を取り入れることで、自己肯定感を高めることを考え、次の手だてに取り組んだ。

(3) 活動のねらいを伝え、自分なりの目標を明確にする取組

さまざまな活動・行事に対して、その取組のねらいを明確に児童に伝える。次に、そのねらいに即して個々の目標を立てさせたり、その活動の中で自分のできることを考えさせたりして、それを明文化させる。更に活動後、その目標に対しての振り返りを行うようにした。

ア 「地域キラキラ隊」の活動に対して（【資料1】巻末に掲載）

「地域キラキラ隊」は、地域の清掃活動であり、児童も一生懸命に清掃を行う。しかし、「地域キラキラ隊」の目的はそれだけではない。そこで、2回目の縦割り班で活動を行う際、「地域キラキラ隊」の目的を伝え、それに対する目標を考えさせた。

【「地域キラキラ隊」の目的】

- ① 自分の住む地域の清掃活動を通して、地域の環境に対する意識を高め、地域の一員としての自覚をもつ。
- ② 保護者や地域の人々にも参加してもらうことにより、地域や保護者の結びつきを深める。
- ③ なかよし班で行うことにより、下級生の手本になったり、下級生に声をかけたりすることで、上級生としての意識を高める。

【児童Aの考えた目標】

いつも指示を出してもあまり聞いてもらえないので、今回は6年生らしい姿を見せたい。

【児童Bの考えた目標】

上級生としてふさわしい行動をする。地域の人に大きな声で挨拶をする。

【児童Cの考えた目標】

いつも挨拶をしてくれたり、何かあったとき助けてくれる地域の人々に感謝の気持ちを込めて掃除する。下級生に声をかけて、上級生としてがんばりたい。

【児童Aの振り返り】

自分が満足できる70%ぐらいができた。班長としての恥をかくことがなかったのでうれしかった。

【児童Bの振り返り】

上級生としてふさわしい行動ができた。大きな声で挨拶ができなかったことを反省している。

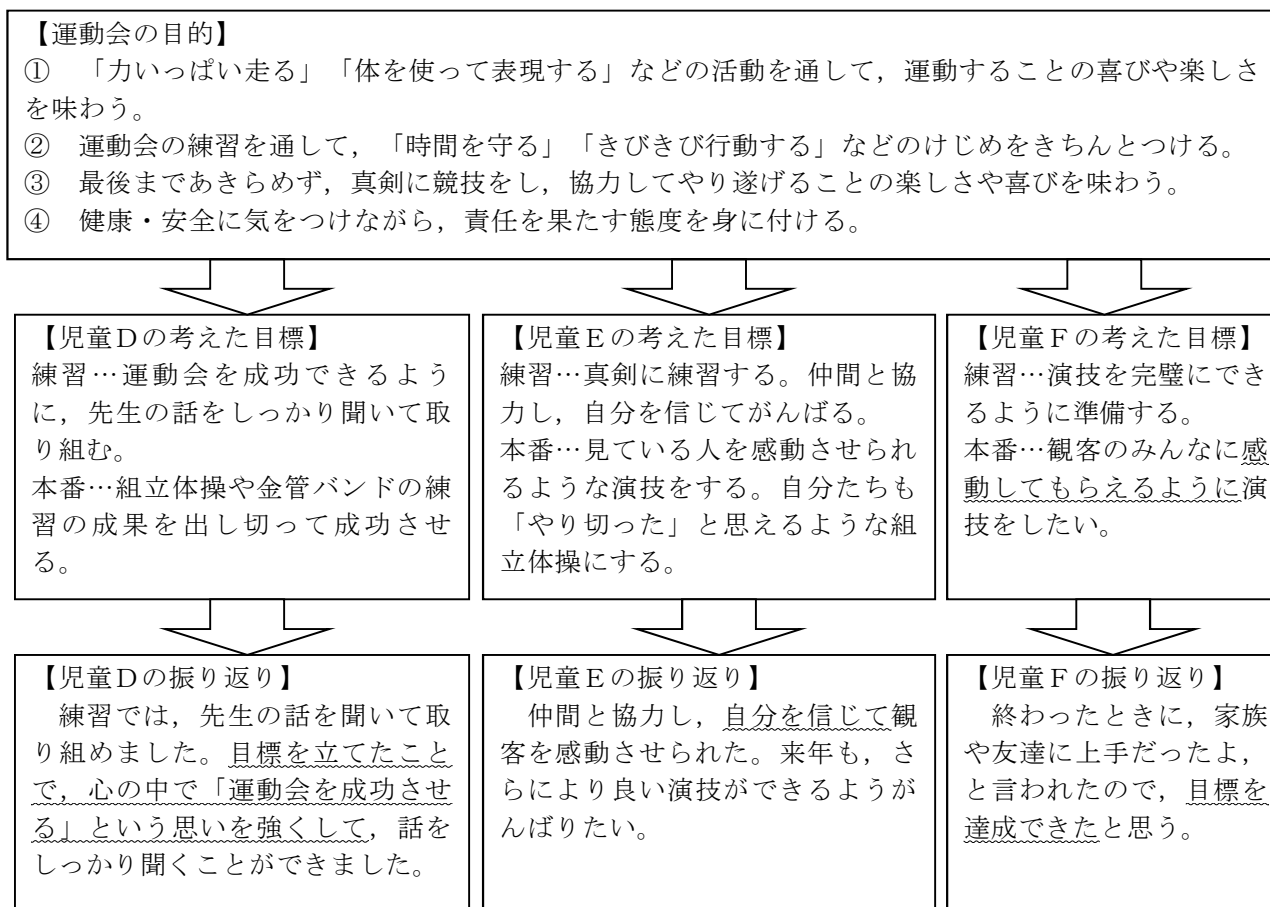
【児童Cの振り返り】

地域の人たちも来てくれて、一緒にできたのでよかった。きれいに見えた公園もごみを集めるとたくさん集まりました。下級生と一緒に掃除して、上級生としてがんばれた。

児童Aは、真面目な児童ではあるが引っ込み思案で、6年生として班長になったものの日頃の縦割り活動でも、うまく班に働きかけることができなかった。しかし、活動の目的を考え、自分なりの目標を立てたことで活動を充実させることができた。児童Bは、目的を考え、清掃以外の目標を立てたことで、地域との関わりの点を反省し、次に生かそうとしている。児童Cは、5年生であるものの、目的を伝えることにより、一緒に活動した地域の人々にも目を向けることができた。

イ 運動会の活動に対して（【資料2】巻末に掲載）

運動会は、活動内容が明確であり、児童は、競技をすることや一生懸命にやること、勝ち負けに意識が行きがちである。そのために、運動が苦手な児童にとっては、意欲を高めにくいところがあるのではないだろうか。そこで、この運動会においても、活動の目的を児童に伝え、その目的にあった目標を個々にもたせることにした。



ここに挙げた三人の児童は、いずれも5年生である。6年生と一緒に活動することの多い5年生にとって、運動会の目的を知り、自分の目標を考えて言葉にすることは、より意義のある取組となった。児童Dは、運動が苦手であるが、運動会の目的を考え、話を聞いて、できるところをがんばろうという気持ちをもった。また、恐らくどの児童も、家族から「がんばったね」という言葉を言われると思うが、児童Fは、自分の目標とその言葉とが繋がったため、より自己肯定感を高めたように感じる。

5 実践のまとめ

運動が苦手な児童に対して後ろ向きである児童においても、運動会のねらいを知り、その中で自分ができることを考え、ねらいを立て、それを言語化することで、何をがんばればよいかを具体的に明確にすることができた。また、活動後、運動会全体の振り返りではなく、自分の目標に対する振り返りを行うことで、自分なりにがんばった思いを明確にもつことができた。競技の結果に目を向けるのではなく、自分なりの目標についてどうだったかを考えることで、自分の行動と思いがつながり、

充実感、満足感、達成感を高めることができたように思う。そして、その充実感、満足感、達成感が自己肯定感の高まりにつながると思う。

また、教員の意識も変わってきたように思う。会議において、さまざまな活動の提案がなされるが、そのねらいや目的は重視されず、内容に目が行きがちになるのではないだろうか。しかし、今回、この取組を行うにあたって、担任がワークシートを使いながら説明する中で、担任自身が、その活動の目的を再確認することとなった。そして、その目的にあった声掛けや活動の評価を心がけるようになった。特に経験の少ない教員にとって、自分の言動や取組を見直す機会となっただけでなく、ベテラン教員の言動の意味や活動の価値を考える機会にもなった。

今回の実践では、「地域キラキラ隊」と「運動会」の活動を載せたが、「学習発表会」や4の(1)で紹介した活動においても同様な傾向が見られた。

「教育」は「協育(協力して育てる)」であり「共育(共に育つ)」である、という言葉聞いたことがある。家庭・地域と学校とが、同じ考えの下、協働して児童を育てることは、教育をより強いものとする。本校は、開校8年目にもかかわらず、家庭・地域と関わる活動が多く取り入れられている。そして、その活動に家庭・地域の人も協力的に参加してくれる。その基盤を更に生かすためにも、今回の実践のように、目的をはっきりとさせて活動する取組を積み重ねるだけでなく、さらに、児童がどんな思いで活動に取り組んでいるかを、家庭・地域に広めていくことを課題として、より充実させていきたいと考える。

6 おわりに

学校教育は、学習とともに、いろいろな教育活動を通して、児童が自分自身を高めていくことが重要である。そして、それを支えていくのが教師の役割と考える。自分の成長に気付いたり認められたりすることで、自己肯定感は育まれていく。その意味でも人との関わりと体験を柱にした活動の充実が欠かすことができない。しかし、今後、導入される道徳、外国語活動の教科化、社会の課題に対する学校への期待、さまざまな取組の見直しに対する保護者の期待、取り組むべき課題などが山積みである。その中で、いかに児童と向き合う気持ちと時間を確保し、児童の心を育て、豊かな人間性を育てていくかを考えていかなければならない。そのためには、今ある活動に工夫を加えていくことが大切であると感じ、本実践もそのことを意識して行った。今後も、その観点で活動を見直しながら、実践を積み重ねていきたい。

【資料1 ワークシート1】

目標をもって取り組もう

6年組 番名前 _____

今日のキラキラ隊の活動を、あなたはどんな目標で取り組みますか。
キラキラ隊の目的も考えながら、自分なりの目標を考えてみよう。

キラキラ隊の目的

- ① 自分の住む地域の清掃活動を通して、児童の地域の環境に対する意識を高め、地域の一員としての自覚をもつ。
- ② 保護者や地域の方々にも参加してもらうことにより、地域と保護者の結びつきを深める。
- ③ なかよし班でやることにより、下級生の見本になったり、下級生に声をかけたりすることで、上級生としての意識を高める。

自分なりの目標

低学年がそうじをしていなければ教える。
しかりそうじをして、困っている人がいたら助ける。

↓

キラキラ隊の活動を振り返ってみよう。

振り返り

いつもそうじをしない人に「がんばってやてね」と言ったとて、もががんばってくれた。
みんなが遊ばずしっかりできた。

【資料2 ワークシート2】

目標をもって取り組もう

5年1組 1番名前 _____

いよいよ運動会。一生懸命練習をがんばってきましたね。思うぞんぶん、練習の成果を出してください。そこで、運動会を、あなたはどんな目標で取り組みますか。
運動会の目的も考えながら、自分なりの目標を考えてみよう。

運動会の目的

- ① 「力いっぱい走る」「体を使って表現する」などの活動を通して、運動することの喜びや楽しさを味わう。
- ② 運動会の練習を通して、「時間を守る」「きびきび行動する」などのけじめをきちんとつける。
- ③ 最後まであきらめず、真剣に競技をし、協力してやりとげることの楽しさや喜びを味わう。
- ④ 健康・安全に気をつけながら、責任を果たす態度を身につける。

自分なりの目標

練習では

練習では、きびきびと行動もとり、組体操では、安全に気をつけたから、一生懸命、けじめをもち練習をした。人数の多い時も、一人一人にきびきびと、本番で成功させた。

本番では

練習で難しかった、大迫りでも、けじめをつけて、成功させた。仲間と協力して、練習でやったように、本番でも、きびきびと行動して、運動会に力を入れた。

↓

自分の立てた目標をもとに、運動会の活動を振り返ってみよう。

振り返り

練習のとき、きびきびと行動をとれることができた。
それ、本番では、全部の技が成功できて、観客の人に感動とてけられたと思えます。けじめをつけて、できたと思えます。仲間と協力して、一人一人が、輝かすと思えます。